

# 令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【南浦和小学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	学校としての平均正答率は、どの項目においても高い数値を示しているが、同集団経年比較の結果を見ると低下傾向が強い。今後基礎学力パワーアップタイムの実施を徹底し、「ドリルパーク」「スタディサプリ」等を活用した、漢字や基本的な計算等の反復・習熟の充実を図る。
思考・判断・表現	学校としての平均正答率は、どの項目においても高い数値を示しているが、同集団経年比較の結果を見ると低下傾向が強い。作品やレポート等に取り組む際のふり返りシート等や、協働的な学習の場面における伝え合い方等の基本的なスキルの指導を行うことで、思考力や判断力、表現力の向上を図る。
主体的に学習に取り組む態度	昨年度より「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目が向上しなかったため、引き続き、学びのポイント「じ・し・ゃ・く」を意識した授業展開を行い、児童とともに必要感のある課題を設定し、解決の見通しをもたせ、自力解決を行う場面を設定する。さらに、授業の終末には必ず自ら振り返りを行う時間を設定することで、主体的な学習意欲の向上を図る。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	R4年度全国学力・学習状況調査及び市学習状況調査の同集団経年比較の結果より国語・算数の「知識・技能」において1pt向上させる。 (R5年度全国学力・学習状況調査の国語・算数の「知識・技能」において全国平均を上回る。)	⇒ 金曜朝の時間に基礎学力パワーアップタイムを実施し、「ドリルパーク」「スタディサプリ」等を活用した、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組ませる。その際、月初めの金曜朝に児童自ら学習履歴を確認させ、個別に学習計画を立てる時間を設定する。
思考・判断・表現	R4年度全国学力・学習状況調査及び市学習状況調査の同集団経年比較の結果より国語・算数の「思考・判断・表現」において1pt向上させる。 (R5年度全国学力・学習状況調査の国語・算数の「思考・判断・表現」において全国平均を上回る。)	⇒ 児童が課題に対して作品やレポート等に取り組む際、評価の観点を示した上で、ふり返りシート等を活用して、定期的に進捗状況を確認しながら、児童の思考したプロセスを評価していく。また、学校課題研究(体育・人権教育)を通して、協働的な学習の場面における伝え合い方等の基本的なスキルの指導を行うことで、表現力の向上を行う。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査及び市学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合をR4年度の93%から95%以上にする。	⇒ 学びのポイント「じ・し・ゃ・く」を意識した授業展開を行い、児童とともに必要感のある課題を設定し、解決の見通しをもたせ、自力解決を行う場面の設定を行う。さらに、授業の終末には必ず自ら振り返りを行う時間を設定する。

<小6・中3>(4月~5月)

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	全国学力・学習状況調査は、国語、算数ともに概ね昨年度の結果より向上が見られたが、さいたま市学習状況調査では各学年とも同集団経年比較の結果を見ると低下傾向と言える。一定の成果はあるものの、特に算数に課題が残った。	B
思考・判断・表現	全国学力・学習状況調査は、国語、算数ともに概ね昨年度の結果より向上が見られたが、さいたま市学習状況調査では各学年とも同集団経年比較の結果を見ると低下傾向と言える。一定の成果はあるものの、特に算数に課題が残った。	B
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査及び市学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、どの調査ともに肯定的な回答の割合をR4年度の93%より向上させることができなかった。	C

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	・国語の平均正答率は昨年度と比較して、+0.3ptである。内容や領域ごとの平均正答率では、「言葉の特徴や使い方に 関する事項」が80%と昨年度と比較して+3.3ptで最も高く、「情報の扱いに関する事項」は72.7%に留まった。 ・算数の平均正答率は昨年度と比較して、+0.9ptである。より一層、知識・技能の定着に向け、繰り返し学習等の充実に努める。
思考・判断・表現	・国語の平均正答率は昨年度と比較して、+1.7ptである。内容や領域ごとの平均正答率では、「話すこと・聞くこと」が85.3%と昨年度と比較して+4.3ptで最も高く、「書くこと」は33.3%に留まり最も低い。 ・算数の平均正答率は昨年度と平均して、-3.2ptである。より一層、思考・判断・表現の定着に向け、特に算数における話し合い活動等の協働的な学習の充実に努める。
主体的に学習に取り組む態度	・R5年度全国学力・学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目の、肯定的な回答の割合は93.8%で目標値の95%に、1.2pt達しなかった。より一層、子ども主体の学びとなるよう授業改善に努める。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析			
※令和5年度のさいたま市学習状況調査結果は参考値扱いとなります。			
小3	R4国語の「知識・技能」の結果より2.1p高く「思考・判断・表現」の結果より0.7p高かった。また、R4算数の「知識・技能」の結果より2.9p低く「思考・判断・表現」の結果より1.8p低かった。算数が全体的に課題である。	小4	同集団経年比較の結果より国語の「知識・技能」は昨年度同様の結果となり、算数の「知識・技能」は0.4p低下した。また、国語の「思考・判断・表現」は0.3p低下となり、算数の「思考・判断・表現」は1.4p向上した。算数の「知識・技能」と国語の「思考・判断・表現」が課題である。
小5	同集団経年比較の結果より国語の「知識・技能」は0.8p向上し、算数の「知識・技能」は1.7p低下した。また、国語の「思考・判断・表現」は0.4p低下となり、算数の「思考・判断・表現」は1.5p低下した。算数はどちらも課題である。	小6	同集団経年比較の結果より国語の「知識・技能」は0.4低下し、算数の「知識・技能」は2.7p低下した。また、国語の「思考・判断・表現」は1.1p低下となり、算数の「思考・判断・表現」は1.6p低下した。特に、算数はどちらも課題となり、国語の「思考・判断・表現」も課題である。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ 変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒ さらに、学びのポイント「じ・し・ゃ・く」を意識した授業展開を行い、自ら思考する場面の設定を充実させる。
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ 変更なし